

まんさく

第302号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



湯田中学校2年生介護の職場体験で来苑(^^♪) 《7月3~4日》

2日間、光寿苑とひなたぼっこにお一人ずつ、湯田中学校2年生の生徒さんが来て下さいました。(ひなたぼっこの写真が無くてごめんなさい。)緊張されていましたが、お年寄りたちは喜んでましたね♪

302号『まんさく』もくじ

☆2頁★

*認知症研修会 in にしわが
[講師対談の内容一部掲載]

☆5頁★

*元気です!家族会♪
*今生より往く

☆3頁★

*想…災害を捉える

☆6頁★

*「光寿苑の日々」(4コマ漫画)
*「自然法爾」(おきさんのお話)

☆4頁★

*地域密着型事業紹介
*寄附・寄贈・訪問等紹介 等

*「おわりに」

認知症研修会 in にしわが 令和6年6月11日

丹野智文氏と実行委員長対談 & 「オレンジランプ」映画上映会

39歳で若年性アルツハイマー型認知症を発症して11年…。当事者として世間に石を投げ続けている丹野氏。「認知症になっても笑って生きられる町にしなきゃね♪」と訴えかける！



①映画の中で、社長の顔を忘れてしまう事も本当、道に迷って女性に尋ねたら、ナンパですか!?、って警戒されたのも本当、ずっと本当の話もありのまま世の中に伝えたくて、映画作りに協力をした。

②認知症になって、助けて欲しい、助けて助けて、助けて欲しい。これが困る。認知症の症状は止められないけど、止めて欲しい事が二つある。一つは家族が心配し過ぎて外出禁止にする事。もう一つは財産を取り上げられてしまう事。そう

すると、本人は家族を大切に思っているから何も言えなくなる。自分も病気になるって申し訳ないって思うから、どんどん禁止されるとウツになり、生きる事をあきらめてしまう事につながる。

③さらに問題は、皆さんの優しさ。認知症の人に失敗させないようにって先回りして何でもやってしまうと、本人がやれる事もやらなくさせてしまう。誰かに依存しなければ生きていけない。認知症よりの、対応で作り出されるウツや依存症、これが怖い。



会場は熱心な聴講者でいっぱいになった

町民大学 認知症研修会 in にしわが

【内容】
講演 誰もが笑顔で暮らすために…
講師 丹野智文氏

映画上映 「オレンジ・ランプ」

オレンジ・ランプ
39歳で若年性認知症を発症して11年…
誰もが笑顔で暮らすために…

令和6年6月11日 (火)
17:30開演 18:00閉演

文化財活動部 (津波ホール)
〒719-0232 島根県津和野町津波1-1-1

講師 丹野智文氏

町民大学 認知症研修会 in にしわが

④認知症の本人同士で、お金をいくら持ちたいか議論した。千円はどうか？、ラーメン食べたら終わっちゃう！、二千円はどうか？、まだ足りない！って思う。五千円は？、無くなった時のショックが大きいとなった。

結果、三千円が丁度いいとなった。

⑤家族にケアマネだけじゃダメ、家族の方角いて話す。サービースを使うのは私なりに。勝手に決められて、行きたくないとみれば「拒否」と言われ、無理矢理連れて行かれて、帰りたい！って言うって帰宅願望！ってされる。それに怒ったり落ち込んだりするとPTSDととられる。認知症の人って最初から見るから病名になるけど、人のあたり前の感情だと言いたい。

想... 災害を捉える 宮城県から発信します⑩

『3.11 [4]』 白木澤 琴 氏



10回目となります宮城県の僧侶・白木澤琴さんのご執筆です。今回も3.11の厳然たる現実が続きます。状況を思い浮かべながら賜りました。

3.11 [4]

何とも言えない無力感を感じた、ご遺体の安置所の帰り道。そこからすぐ近くの野蒜^{のびる}という地域に、ご門徒さんがいるため、ご自宅にお見舞いに伺おうと、父と二人で向かった。

野蒜は、鳴瀬川の河口付近の地域。川沿いの道路を、河口に向けて車で走る。河口に近づくにつれて、辺り一面瓦礫の山。やっと通れるようになった狭い道をゆっくり進む。河口の向こうには、先日の津波が嘘のように、静かで、キレイな海が広がっていた。

この地区には、貞山堰と呼ばれる幅20メートルほどの運河が、海岸線からノキ口ほど内陸に、平行に流れている。しかしそこは、押し流されてきた家や車、多くの家財道具や、お寺の本堂のような建物など、すさまじい数の瓦礫で埋め尽くされていた。視界のすべてに広がる変わり果てた景色を目にした時、父も私も、言葉を失って

いた。

「ただ念仏っていうけど、こういうことだよね。」

私やぼそっと口にした言葉に、父は深いため息まじりのような声で、

「さうだなあ。」

と、共感してくれたことが忘れられない。

この光景を前にしては、どんな言葉でも、間に合わない。そう感じた。

伺おうとしていたご門徒さんの自宅は、海岸線から約ノキ口ほど内陸。家はある。でも、どなたもいらっしやらない。

「さうだ、避難されたんだね。」

そう言っ、私たちは帰路についてた。だが後には、このお宅ではお二人のご家族が津波で亡くなられたことを知った。

ご自宅からさらに内陸にある野蒜小学校の体育館に避難されたおばあさんは、そこまで襲ってきた津波により亡くなられ、忘れ物を取りに戻られた息子さんもご自宅付近で流され、命を落とされたの

だった。

震災を機に、これまで「常識」とか「正しい判断」だと私自身が思ってきたことは、いとも簡単に覆されていった。

また、私やこれまで行ってきた仏教の学の方では、机上の空論ばかりで、生きるか死ぬかの危機的な現実の問いの前には、通用しないということが露呈されたのだ。

本当に生きる力になる学が、私自身も親鸞聖人の教えの中に求めているのだと、痛感したのだ。

〔続く〕

白木澤 琴

職員募集

介護職員、調理職員を初め、送迎業務や営繕管理、除雪などもできる方も探しております。

一度、ぜひ、お問い合わせ下さい。

【代表 0197-84-2526】

今月の登録者の方々
14名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

梅雨の時節でも皆さん元気♪「ひなたぼっこの日常」



【上2枚】春の消防訓練
【中左】ミズの皮むき



【中右】お茶会バス旅行
【下2枚】あやめ公園ドライブ&あやめ



おかげさまでした

寄贈

★=光寿苑
☆=ひなたぼっこ

- ★ 武田 久男 様 [零石町]
- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 小田島 アサ 様 [細 内]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 木戸 尚子 様 [北上市]
- ☆ 石川 顕 様 [盛岡市]
- ☆ 山口 要子 様 [奈良県]

面会・外出 [6月1日~30日]

【対面面会】 延べ70名 (対象入居者28名)

訪 問

- 7月3~4日「職場体験」
- ★☆ 西和賀町立湯田中学校2年生 … 各1名
- 6月3日「春の消防訓練立会い」
- ☆ 北上地区消防組合西和賀消防署 … 5名

光寿会へのご支援

元気です！家族会♪

▽火傷(完全版)▽

117回目も家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿でございます(^^) 前々回の「火傷」完全版をお届け致します！

ドカンという轟音と共に、目の前の野焼きが弾けた。一瞬、何が起こったか分からないうちに、次瞬間に顔に激痛が走る。近くの商店の庭で物を燃やしている。その周りで小学生や多分中学生も何人が居たかも知れない中で、何かがいきなり爆発した。店で余った物や紙くずなどを燃やしている最中で、火の一番近くに居た私だけが火傷をしたようだ。とにかく、顔の右半分が激痛を感じた後、事はよく覚えていない。

後から聞いた話によると、



家族会副会長 佐々木忠雄氏

姉たちは、

▽体調不良で寝ているし、自分たちで看病するから、と言って、一晩中、濡れタオルで顔を冷やしてくれていたようである。当時、母も忙しかったので娘たちに任せていたようなのだが、朝になって私の顔を見てびっくりしたようである。

しかしながら、病院にも連れて行かず、顔にオロナイン軟膏を塗り、濡れタオルで一晩冷やすという蛮行のおかげで、現在、顔に火傷の跡はない。

いかに、あきれ返ったのは母である。痕が残らなかったとは言え、大変な火傷には変わりなく、それを隠れて看病していた姉たちは、しこたま怒られたようである。

母の心配事がなくなる日は、来るのでしょかね(笑)。

「続く」



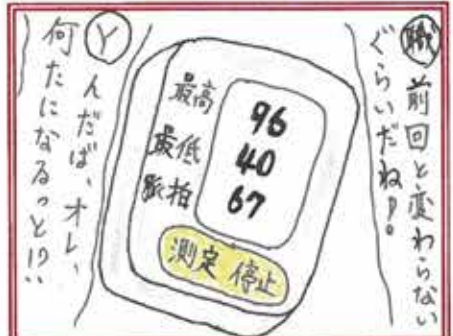
孫想い、家族想いの心は永遠に...

『今生より往く』

いつも「ありがとう」と言ってお下さる方でした。仄帳面な性格で、身の回りをキレイにしておりました。最期には、苦しい中でもお嫁さんの名前や声掛けには、しっかり反応してくれました。咲子さんと過ごせた楽しい時間をずっと忘れません。ありがとうございました。

【担当：佐藤俊子、柴田真衣】

光寿会
の日々
302号



イラスト：1000

全く極一般的にどこでもあるこの場面。血圧いくらです、と依ればそれで終わってしまうこの場面を、お年寄りの方から冗談を持ちかけ、その世界観で冗談を返す職員。実に豊かな関係と言え。ただ数値を依るではない、会話の工夫

誰かが始めた争いで

《沖繩仲間友佑》

第100回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

6月23日、沖繩戦の追悼式で、高校生の仲間友佑君の声や摩文仁ヶ丘に響き渡った。

あの日 少年少女たちは誰かが始めた争いで

大きな未来とともに散って逝った

テレビ画面の仲間君は声を張り上げて、「これから」と題した俳詩を暗誦する。私はその面立ちを見ながら、15年前、初めて沖繩の南部戦跡を訪ねた時のことを思い出していた。

昭和20年4月に始まった沖繩戦は、この日、民間人15万人を含む日米25万人を犠牲にして終末を迎えた。熾烈を極めた米軍の攻撃もや

ることながら、下級兵士に対し、降服を禁止して自決した軍司令官の無責任。民間人への自決強要。壕から追い出され、逃げ怒る人々は最南部の喜屋武岬の断崖から海に身を投じた。史上、例を見ない惨状。

七十九年の祈りでさえもまだ足りないというのなら僕らが祈りを繋ぎ続けよう

自作詩を暗誦する仲間君を見ていて思い出していたのは、「ひめゆり部隊」の資料館でみた同じ年頃の女生徒達の写真の顔だった。

6月23日は、沖繩だけの敗戦ではない。戦後は、この日から始まっていた。

おわりに

お笑い界の重鎮、映画監督等、幅広い才能を發揮しているビットたけしさん。若い頃はスキヤンダルや大事故で世間を騒がせたその人である。そのビットたけしさんあるトーク番組で、クイット、引退するんですか？上の人たちが全然やめないから、という質問をされた際、こう返答なされた。『いつって考えてないかな。でもさ、いいさんなってもまだやってさ、ボロも出てきてもさ、それもいいんじゃないかって。』あんななってもまだやってるよ！』とか言われて。ボロボロになった自分も見せてあげないよ！ね(笑)。人生経験の豊富さと地位名誉ある人の深く深い言葉が胸を打った。